

ノーブリッジに出会うことになる。

右岸に30mの滝をかけて支沢が合流した先で、左岸が大きく崩れていた。スノーブリッジ上にはまだ大石がゴロゴロしている。崩れてまだ間もないところらしい。足早に通過する。

やがて四糸四段滝とかかれたプレートが出てきて、滝が4つ連続する所に出る。私と木村さんが右岸、西さんが左岸を捲く。私達は高く捲きすぎて、4つの滝をいっぺんに捲いてしまった。西さんの話では、2段目からは直登できたとのこと。しかし、私達は右岸に踏跡をみつけ、これをたどってきたので、これがこの滝の捲き道と思われる。

また河原がしばらく続くが、今度はスノーブリッジの連続。上を通ったり、下をくぐったりしながら越える。

12:20 F, 20mの直瀑。右岸の小さなルンゼを登って捲くが、ここに捨て縄があった。

沢が大きく左に曲がり、兩岸が切り立つ岩場となってきた。C.S.滝が出てきて、右岸の岩場をトラバース気味に登って越える。西さんが先に登って、ザックを吊り上げてもらい、私と木村さんは空身で登った。次のF<sub>1</sub> 8mは左岸を捲いたが、草付きの中にある岩がもろく苦勞した。

しばらく傾斜のない平凡な河原がつづく。これでこの沢ももう終わりかと考えていたら、その先沢幅がかなり狭くなってきたあたりで、滝がいくつもかかるようになった。しかし、もう大きなものもなく、楽に越えてゆける。

最後の二俣を左に入ると、もう源頭部。1m程の幅しかなくなり、水も濁れる。左岸の藪にもぐりこんだら、すぐ登山道に出た。

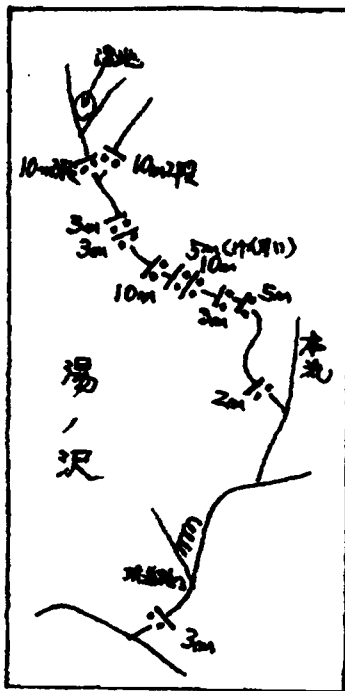
【タイム】 日中ダム(6:30)→高倉沢出合(7:40)→飯森沢出合(8:00)→遊行終了(15:00)

## 湯ノ沢

1984年7月29日

L

自分では飯森沢を下降するつもりで、6:00湯ノ沢の下降開始。10分程下った所に源頭が出てきて、ここでワラジをつける。すぐ10m三段の滝。右岸のブッシュを利用しながら下る。この先小さいが滝が次々とかかる。大部分はブッシュを利用して下ることができたが、5m滝ひとつは懸垂下降する。



やがて沢が右に曲がり、先を見通すことができるようになった。どうも飯森沢とは違うようだということは、すでにこのあたりで気付いていた。飯森沢にしては支流の入り具合、沢の様子、屈曲の具合などがどうも一致しないのである。それに磁石の指針から判断して、流れの方向も異なる。といて今更引き返すこともならず、問題はどの沢を下っているかだということになって、更に下降を続ける。

7時40分、右岸から沢が入る。こちらの方が本流のようである。そしてそのすぐ先でまた1本大きな支沢が合流する。今までは、小さいながらも滝がいくつもかかり、結構楽しかったのであるが、この先は全く平凡な河原下りとなってしまった。

8時20分、右岸に坑道跡を見る。どうやらこのあたり昔の飯山跡のようである。河原の石もすっかり赤茶けてきた。

9時20分、左岸に何か建物が立っているのが見えてきた。林道も走っている。沢の様子に何の変化もないので、ここで下降終了として沢から上がる。

あとは林道を歩いて広河原の集落に出る。どうやら湯ノ沢を下ったらしいと、途中で見当をつけて覚悟はしていたものの、米沢営林署の看板と、湯ノ沢林道の標識を確認した時にはいささかガックリしてしまった。

初森と飯森山を結ぶ登路が廃道となっていたことに加え、地図にない立派な登山路ができていて、現在地の確認が充分にできないままに下ってしまったのが失敗の原因である。自戒と反省の気持ちを込めてこの記録を公表する。

【タイム】 下降開始(6:00)→下降終了(9:20)→広河原(10:45)

押切川源流調査記

1984年8月13日

L

野辺沢川林道の橋を渡り、左岸の踏跡に入る。5分程歩くが、ヤブが背丈ほどあって、沢の方が楽だと、沢に下る。